

## 地域エネルギー活用のための座談会が開催されました

9月24日から10月4日までに中新田3地区（広原・中新田・鳴瀬）、小野田地区、宮崎地区の5つの地区で座談会を行いました。昔のエネルギー利用はこれからの地域エネルギー活用のヒントになります。かつて使われていたエネルギーを今の生活にあわせて、新しい利用方法がないだろうか？ということで、昔の事を知っている人に集まって頂き、座談会を開きました。座談会では、下の質問票にある5つの質問を中心に、主に昔の暮らしとエネルギー利用についてお聞きしました。

### 聞きたいこと、考えたいこと

- この地区の良いところ
- この地区に住んでいて心配なこと
- 震災のとき大変だったこと、役だったこと
- 家や仕事で燃料や水は何を使っていますか？
- 昔は燃料や動力は何を使っていましたか？



## エネルギーの地産地消（この事業のこと）

昨年の震災の時には、加美町でも、電気やガスがとまりました。オール電化にしていたことで、電気がとまったときにお風呂にはいれなくなったり、石油がなくなり車で移動が不便になったりしました。電気やガスが止まったときどうすればいいのか？不安はまだあります。でも、加美町は資源の豊富な地域です。資源の豊富な加美町で、地域のエネルギーを地域のために使えば、地域はゆたかになり、安全・安心なまちづくりにつながるはずです。この、エネルギーの地産地消のしくみの実現について、考えて、実行する企画が始まりました。各地域2名ずつの地域委員を中心に、加美町協働のまちづくり推進課、株式会社循環社会研究所、大学の先生たちが協力しています。

加美町の三つの地域（中新田・小野田・宮崎）で、どんなエネルギーをつかってどんなことができるかということについて考えます。加美町でエネルギーをつくりだして、それを家庭や学校など加美町の中で使うしくみを実現するお手伝いします。

### どんなことをするの？

太陽光、風力、水力、薪、炭、使用済み天ぷら油など、地域のなかにあるものをつかって、地域のなかで使えるエネルギーの活用について考えます。

- 加美町でかつて使われていたエネルギーやそれを利用する社会のしくみをみなおします。
- 昔の生活を再現するのではなく、今の生活にどう活かせるかを考えます。
- 加美町ならではの安全・安心なエネルギー利用のしくみを提案します。

**次のページより、座談会の内容がはじまります。**

## 中新田（広原・中新田・鳴瀬） 地域委員：千葉連悦さん 橋本幸二さん

### 9月24日 鳴瀬（鳴瀬地区公民館）8人

鳴瀬地区では、公民館での地域の会合があった日に集まって頂きました。70代・80代のとても元気な人たちから話を聞きました。鳴瀬はかつては洪水がよく起こって大変だった土地ですが、今ではしっかりした堤防が築かれていて水害もなく、一等地とのことでした。鳴瀬地区は、四日市場を流れる用水路・志田江が生活に深く関わっていました。毎朝3時ころに水汲みをして、台所やお風呂に使っていたそうです。志田江の水が、元気に長生きできる秘訣のようです。



田んぼの広がる鳴瀬地区では、もみがらやわらを燃料に使っていました。稻わらを30cmくらいの高さの藁布団にして、ひと冬の間板の間に敷き詰めていても暖かかったそうです。ぬか（もみがら）でご飯を炊く「ぬかがま」の話になると、皆さんの目が輝いていました。とても簡単で、とてもおいしいとのことでした。

### 9月28日 広原（広原地区公民館）13人

広原地区では、公民館の館長さんの呼びかけで集まって頂きました。公民館は地域の人たちの集まる場となっているようでした。広原は、安全安心なまち、人情・団結力あるコミュニティが形成されているまちとのことでした。「狼塚」や「矢越」など、地名の由来についても聞きました。その土地に関わった地名が今でも使われていて、とても興味深かったです。



昔の暮らしについて、山の方の地区（上多田川・下多田川）と田んぼのある地区（城生・狼塚）では生活も異なるようでした。多田川沿いの地区では、わき水が豊富で、家の中まで水を引き入れて利用していたそうです。今でも、水道とわき水と両方を使っています。一方、城生地区では、井戸を利用していたそうです。多田川は今はコンクリートの護岸工事されてしまったので、昔のように川で遊べないことが残念とのことでした。また、昔はシジミがとれたり、カジカがいたりした川だったようです。

### 10月4日 中新田（於：中新田公民館）7人

中新田では、50代から80代までの世代の人たちに集まって頂きました。中新田は設備が整っていて人柄の良いまちで、行政地区の垣根を越えたつきあいをしているとのことでした。設備も整っているとのことでしたが、入院設備がないこと心配の種となっていました。また、若い世代に対する心配についての話が出ました。今は便利すぎて不便を知らない若い世代（20代～50代）に不便を教えたいという意見でした。



電気を使わない日をもうけるなどのとりくみをして、いざというときにどうやって自活できるかについて考えるといいとのことでした。若い世代への心配がある一方で、今の若い世代には薪ストーブの要望があるそうです。薪ストーブを取り入れている家もありますが、薪の入手が難しいという問題もありました。

昔の暮らしについては、薪は、鳴瀬地区と同様に「やまざ」があり、春一番に山から木をとってきて木小屋に積み重ねて使っていた。また、台風の時期に上流から流れてきた枯れ木や廃材、橋の一部などをヤスでついて手に入れていたそうです。また、田川と鳴瀬川の合流地点にある簡易水道から引いた水が今でも使われています。新丁から岡町にかけての地区には井戸がありました。井戸は飲み水に使えたそうです。この地区はおいしい地下水が豊富なのかもしれません。

**小野田** 地域委員：遠藤みどりさん 一條新さん

**9月26日（西小野田地区公民館）7人**

小野田では、青年会のメンバーにも来てもらったので、ほかの地区よりも若い世代が中心でした。小野田は人と人とのつながり、実行力のあるまちでした。薪ストーブの話で盛り上がりましたが、ほかにも用水路や井戸堀の話や、田んぼの柿の木など、かつての生活風景の話ができました。



地域委員の遠藤さんをはじめ、小野田には薪ストーブを使っている人が何人もいました。薪ストーブのいいところを聞きました。薪ストーブを持っていない人もこれから持ちたいという話になりました。燃料になる薪は自分の山の木や、廃材などを使っています。ただ、木を薪にするのに、高価な薪割り機が必要だったり、手間がかかり、大変とのことでした。また、小野田の土産センターの食堂にも薪ストーブがありますが、今は使われていません。薪が手に入らないことが使われない原因の一つです。

「まきの駅」のしくみ

- ①加美町の山の木を切って、まきの駅に持ってきて売る。
- ②まきの駅で薪に加工して、棚に並べる。
- ③まきの駅から薪を買って薪ストーブの燃料にする。

- ・薪不足の心配がなく、ホームセンターで買うと高い薪が、安く、手軽に手に入れることが出来る。
- ・山を持っている人は、山の手入れになり、ちょっとした稼ぎにもなる。

**宮崎** 地域委員：渡邊哲さん 庄司新壽さん

**9月28日（宮崎公民館）9人**

宮崎地区では、山のこと、川のこと、水車のことなど、いろんなことをたくさん知っている、とても元気な70代80代の人たちに集まって頂きました。あっというまに時間になってしまい、炭焼きや家畜の生産のことまで聞けなかったのが残念でした。宮崎地区は、水害もなく、地盤もよく、資源も豊富で恵まれたまちとのことでした。やりようによっては夢のある宮崎になると、これからの世代への期待と希望もありました。



宮崎の昔の暮らしについては、ご飯の炊き方など、生活のことについて教えて貰いました。ご飯を炊くのに、最初は薪を使って焚いていたのが、もみがらを使うようになってずっと楽になったとのことでした。やはり「ぬかがま」は画期的だったようです。また、家の近くにわき水があることで、お風呂の水汲みをしなくてもよかったそうです。

春先に20日ほど奥山に入って山の木をとる「やまざ」の仕組みなど、山の利用方法を詳しく教えて貰いました。春先に山で切った木は台風の際に川に流して橋のところで棚にして積み上げていたそうです。また、田川の高低差を利用してタービンやいろんな水車が使われていました。水車では米搗き、タービンでは脱穀と精米をしていたそうです。ほかにも個人でもっている押し車（バッカリ）が5カ所あったそうです。

### 地域の人たちが今気にしている問題

○各地区で、落ち葉などを焚くことができないこと。いぐねや山に棄てると虫がわいたり山が枯れる原因になってしまう。

○田川や鳴瀬川の河川敷や中州には大木がたくさんあること。大水で流されたりすると下流地域が大変危険になってしまう。などのことが今の問題としてあります。

### これからの調査予定（最初に見ておきたい場所など）

**広原：**わき水や井戸など多田川沿いや城生地区などの水利用の場所、炭焼きかま、山林の状態など

**中新田：**簡易水道、志田江や股川などの用水路や井戸など水利用の場所

**鳴瀬：**志田川など用水路や井戸、畑中にある蚕室がある民家など、鳴瀬川の河川敷や中州

**小野田：**薪ストーブのあるところや利用しているところ、用水路など水の利用、山林の状態など

**宮崎：**わき水のある場所や用水路、タービンのあった場所や今でもある水車など水の利用、山から流した木をとりあげた坂下橋など山林の利用など

☆小野田・宮崎・広原でメタン発酵バイオマスを利用している、または利用に興味のある畜産農家も是非訪問したいと思っています。

どの地区でも、薪の利用についての話が出ました。どの地区にも用水路がありますが、用水路や井戸、わき水などの利用は地域によって違うものでした。エネルギーの使い方は、地域によって異なっていると思いました。今回通信に載せきれなかった情報や、炭焼きの話など、くわしく聞けなかったこともたくさんあります。これから、加美町の資源をつかって、それぞれの地区においてどのような地域エネルギー利用ができるか、地域の皆さんと考えていきます。そのための調査に、各地域の地域委員さんと一緒に訪れますので、そのときはどうぞよろしく願いします。

これからよろしく願いします。

事務局（問合せ先）：

加美町役場 協働のまちづくり推進課（TEL 63-3215, FAX 63-2037）



地域調査員

安田容子（やすだようこ）

岩出山生まれ、京都市、  
名取市在住

好きなこと：神社を見ること

（第2号につづきます）